





### 南三陸町人口の推移

(令和2年2月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
31年1月	12,987	5,328	1,427	1,952	4,280
2年2月	12,650	5,142	1,381	1,926	4,201
31年1月からの <b>増 減 数</b>	-337	-186	-46	-26	-79
2年1月からの <b>増 減 数</b>	-18	-17	0	-5	4
世帯数	4500	2034	469	649	1348

(2020年3月の新聞記事より)

・2月の出生3人、死亡は16人

## 志津川広報プラザイベント

## 紅谷恵美子(旧姓千葉恵美子) [第2弾] ボタニカルアート展

【開催順延】新型コロナの問題により延期します

原 きんさん (家内図) (家内図) セブンイレブン 表津川原

志津川本浜 志津川広報プラザにて 徳津川駅の海側際 ボタニカルアート 創作のかたわらで書家の先生の元で、毛筆の作品創作も同時に行っていた。

千葉印刷代表 千葉賢二郎の妹、 千葉家四女として遠くから我が家 を見守ってくれていた。

# 未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

**令和元年(2019年)** ~ 地元報道より ~ 11月の出来事

#### 南三陸町■

- ◆志津川小学校で気仙沼信用金庫のマネースクールが、29 日開かれた。信用金庫の職員が講師を務め、お金に関するクイズなどもあり、5年生30人が楽しく学んだ。
- ◆秋の褒章受章者の発表があり、更生保護功績で保護司の阿部勝衛氏(歌津番所)が藍綬褒章を受ける。保護司は、罪を犯した人たちの更生を手助けする民間ボランティアで、生活を見守り、時に相談に応じるなど、社会復帰を支える重要な存在。現在は登米南三陸地区保護司会理事。
- ◆1日、南三陸町小中学校音楽祭が町総合体育館「ベイサイドアリーナ」文化交流ホールで開かれ、全7小中学校から約280人が出演した。美しいハーモニーや迫力の演奏を披露した。会場に訪れた保護者らから大きな拍手が送られていた。
- ◆西日本豪雨で被災した岡山県倉敷市真備町でジャズ喫茶「ごじとま」を営む髙本さん夫婦が、南三陸町を訪れコーヒーを振る舞った。店の復旧支援で縁がある南三陸町に「何とか恩返しがしたかった」と、おいしいコーヒーを届けてくれた。
- ◆台風 19 号の被災地の皆さんの少しでも力になれればと、志津川中学校で生徒や保護者が募金を集め、町に義援金として寄託した。
- ◆政府は秋の叙勲受賞者を発表した。南三陸町からは、元南三陸町消防団副団長の佐藤芳則氏 (入谷水口沢)が、消防功労で瑞宝単光章を受章する。
- ◆志津川地区で建設を進めている「中橋」の架設作業が始まった。中橋は八幡川に架かり、南三陸さんさん商店街や道の駅予定地などを結ぶ。完成は20年度半ばを目指す。
- ◆県は「文化の日」表彰の受賞者を発表した。 南三陸町からは、元町議西條榮福氏(戸倉沖田)、 町議山内孝樹氏(歌津樋の口)、消防団分団長髙 橋和宏氏(志津川秋目川)、消防団副団長元木幸 雄氏(入谷大船沢)、統計調査員渡邊熊義氏(志 津川平磯)。

- ◆かつてない不漁の小型サンマ漁船が操業を再開した。南三陸町の4隻も約2カ月間にわたって休漁していた。
- ◆戸倉地区では台風 19 号で、ギンザケ稚魚 の数が例年より少なくなる見通し。搬入元の 養魚場が被災したためで、水揚げ額に換算し て、1億円以上に上る可能性もある。
- ◆10 日午前7時30分から、総合防災訓練が行なわれる。戸倉地区を主会場に約4800人が参加。 町内行政区での避難訓練も同時に行われる。
- ◆8日入谷地区の民有地に、汚染された牧草をすき込む先行処理を行った。来春に行う土壌や牧草の検査で安全性に問題がなければ、来年秋から本格処理に移行する。
- ◆志津川湾でマダコのかご漁が解禁となり、初日は例年並みの数量が並んだ。8日志津川魚市場に初水揚げされた。
- ◆「みやぎ発明くふう展」で歌津中学校1年 生佐藤悠生君が、県教育長賞を受けた。風の 力で走る車の模型を製作し初入賞。発明くふ う展は発明に対する関心を高め創造力を養う ことなどを目的に、年1回開かれている。
- ◆戸倉地区で来春の出荷に向け、稚魚の搬入が始まった。海水温が高かったため、昨年より9日遅い10日から始まった。稚魚の搬入総量は、例年の1割減の109トンとなる見込み。
- ◆2006 年に始まったマニフェスト大賞のコミュニケーション戦略賞部門で、ホテル観洋が最優秀賞を受賞した。語り部活動を震災直後から継続し、被災地の現状や課題を伝え、交流人口の拡大や防災・減災への取り組みを発信し続ける姿勢が高い評価を受けた。
- ◆南三陸町と共立女子大学・同短期大学が連携協力に関する協定を締結した。町役場で報告会が12日開かれた。来年度から学生が町を訪れて地域活性化や課題解決を目的にしたフィールドワークを実施するほか、地域の特産品を生かした献立づくりなどを展開する。
- ◆13 日東日本大震災で被災した名足小学校に、「GPSランナー」志水直樹さん(兵庫県西宮市)が、活動を通じて集めた支援金を届けた。小学生の時に阪神・淡路大震災を経験していて、2012年から大阪大学の復興支援グループとともに名足小で夏休みに子どもたちの学習支援を継続した。津波で被災した校舎の復旧作業も手伝った。
- ◆南三陸消防署は 18 日から、外国出身者を雇用 している町内の事業所を訪問し、外国語版の防

火パンフレットを配布している。外国人労働者 に火災発生時から避難までの初期行動を周知す るため。

- ◆志津川小学校で 18 日、義足アスリート池田樹生選手をゲストに迎え特別授業が行なわれ、5、6年生 68 人が義足歩行を体験した。池田選手は、義足には日常生活用とスポーツ用があることを紹介し、子どもたちがスポーツ用の義足をつけての歩行体験をした。
- ◆JICAの青年海外協力隊として、南三陸 町の小野寺麻衣さんがモザンビークに派遣さ れる。ザマ州では、シャイシャイにある中等 教育学校の数学教員として着任し、日本の中 高生と同じ年代の生徒に数学を教えるほか、 教員の指導力向上も支援する。
- ◆志津川湾水系さけます増殖協会は、25 日から 海で捕った親魚を使った採卵を始める。定置網 漁場者の協力で100万粒の種卵確保を目指す。
- ◆志津川小学校で徒歩の下校指導が、19 日行なわれた。徒歩での下校指導は6月に続いて2回目となる。復興が進み通学路の環境が整いつつあるため、安全が確保できる地域について、徒歩による登下校の再開にむけた検討を進めている。
- ◆「東北・みやぎ復興マラソン」を主催している 仙台放送が、南三陸町に減災・防災広報車1台 を寄贈した。同社は大会開催の一環で、被災自 治体への車両の贈呈を行なっている。
- ◆志津川架設魚市場で 24 日、「復興グルメFー1大会」が開かれた。宮城・岩手・福島の被災3県の食材を使った一品が集い、3県の5市1町から13店が参加した。
- ◆志津川黒崎地内の高台に、ミャンマーから贈られた大仏が建立され、25 日ミャンマーの僧侶が訪れ開眼法要が行なわれた。仏像は台座を含め高さ5メートル、ミャンマーの大理石製。開眼法要には、ミャンマーの僧侶8人をはじめとする約80人が参列した。
- ◆滋賀県の「びわっこ大使」として活動している、 大津市や草津市などの小学 5、6年生7人が23日南三陸町を訪れ、地元の小学生と交流した。 南三陸町からは、南三陸少年少女自然調査隊の 小学4~6年生10人が参加し、サケのつかみ取りや調理体験を通じ南三陸の自然に触れながら 友情を育んでいた。
- ◆戸倉小学校4年生が26日、自分たちが育てた蚕から取れた繭玉を使ってコサージュ作りを行なった。コサージュは来年3月卒業する6年生に贈られる。